

平和への祈りを捧げる

～天草殉教祭～

天草・島原の乱で亡くなった人々を慰霊する「天草殉教祭」が10月25日、本渡地区で開かれました。当日はあいにくの雨となり、キャンドル行列が中止になったほか、仏式法要は明德寺に、カトリックミサは本渡カトリック教会にそれぞれ場所を変更して実施。同教会のミサには、市民や信者など150人が参列。聖歌の合唱などを行った後、白いベールと衣装に身を包んだ少女たちがマリア像に向かって花びらをまき、平和への祈りを捧げていました。



▲平和への願いを込めて花びらをまく少女たち

県下の中学生が健脚を競う

～県中学校駅伝競走大会～

11月17日、「熊本県中学校駅伝競走大会」が、本渡運動公園陸上競技場を発着とする女子5区間12km・男子6区間20kmのコースで開催され、各郡市の予選を勝ち抜いた男女各25校が出場しました。本市からは、女子が牛深、本渡東、本渡、倉岳、男子が稜南、牛深、牛深東、本渡が出場し、男子は牛深が準優勝、女子は本渡東が4位、牛深が5位にそれぞれ入賞しました。なお、優勝は女子が武蔵ヶ丘（菊池郡菊陽町）、男子が人吉第二（人吉市）でした。



▲同陸上競技場をスタートする男子選手

消火技術の向上を目指して

～屋内消火栓操法大会～

「第13回屋内消火栓操法大会」が11月4日、本渡運動公園陸上競技場で開催され、天草地域の事業所や高校などから31チームが参加しました。これは、天草広域連合消防本部が、屋内消火栓の操作技術の向上などを目的に2年に1回実施しているもの。競技は3人1組で、屋内消火栓を操作して標的に向け放水を行い、タイムや動作の正確性などを競いました。優勝は、男子が養護老人ホーム梅寿荘（栖本町）、女子が天草市役所、高校男子が天草高校でした。

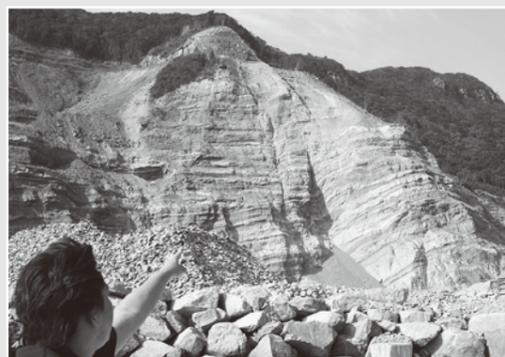


▲標的に放水を行う梅寿荘の選手

“天草御所浦ジオパーク”誕生！

～天草御所浦が日本ジオパークに～

10月28日、第6回日本ジオパーク委員会が開催され、天草御所浦が日本ジオパークに認定されました。国内8例目で、県内では阿蘇とともに初の認定。これは、天草ジオパーク構想推進協議会（会長＝安田市長ほか委員14人）が、御所浦の地層を保全しながら、地域経済や教育文化の発展につなげようと同委員会に申請。同地域で目にする事ができる化石や地層、これらを活用した体験ツアーなど、地域全体の取り組みが高く評価されました。



▲高い評価を受けた約1億年前の地層“白亜紀の壁”

あつあつ！おいしい秋の味覚

～楽しいやきいも会～

11/5
御所浦

11月5日、「やきいも会」が御所浦北保育所（吉中久恵 所長・全園児24人）で行われました。これは同保育所が、子どもたちに土に親しむことや収穫する喜びを知ってもらおうと毎年実施。園児は、自分たちで収穫したイモを洗うなどの準備を行い、その後、イモが焼きあがると先生に「早くはやく」と催促。あつあつのイモにびっくりしたり、よくばって両手にイモを持って食べるなど、秋の味覚をおいしそうにほおばっていました。



▲おいしそうにイモをほおぼる園児たち

野球がつなく世代を超えた交流

～OBと現役との軟式野球交流試合～

11/7
河浦

河浦高校創立60周年を記念して11月7日、同校軟式野球部のOB対現役部員の交流試合が行われました。参加したOBメンバーは、かつて高校選手権や国体で優勝を飾った昭和58年度から同60年度の選手や監督、若手OBなど28人。試合は、1回にOBが2点を先制したものの、その後現役が逆転に成功し、5対4で勝利しました。

会場を訪れた観客からは、世代を超えた真剣勝負に大きな歓声や健闘をたたえる拍手が送られていました。



▲惜しくもタッチアウトとなるOB選手

昔ながらの遊びなどを楽しむ

～大先輩とのふれあい教室～

11/10
新和

11月10日、大多尾小学校（三宅和紀校長・全児童49人）で「大先輩とのふれあい教室」が行われました。これは、高齢者が持つ伝統技術や温かい人柄にふれながら、地域を愛する豊かな心を育てることを目的に実施。児童は高齢者から、小刀や裁縫道具などの使い方の手ほどきを受けながら、竹とんぼやおじゃめ（お手玉）、カライモを使ったおやつ作りに挑戦。完成後は、いっしょに竹とんぼやおじゃめ遊びをしたり、給食を食べたりして交流を深めました。



▲大先輩の手ほどきを受けながら竹とんぼを作る児童

“栖本太鼓踊り”が最優秀賞を受賞！

～全国青年大会～

11/13~16
栖本

11月13日から同16日にかけて、東京都の東京体育館を中心に「第58回全国青年大会」が行われ、市青年団栖本支部の“栖本太鼓踊り”が、郷土芸能・民俗芸能の部で最優秀賞を受賞しました。10年ぶり5回目の出場で、最優秀賞は38年ぶり2回目。大会では、関東在住の同町出身者など多くの応援団の声援を受けて、約7カ月間にわたる特訓の成果を十分に発揮。県の重要無形文化財にも指定されている勇壮な踊りで、観客を魅了していました。



▲勇壮な踊りを披露する団員の皆さん